

関ヶ原合戦後の島津豊久に関する説話について

宮下 愛

はじめに

慶長五（一六〇〇）年の関ヶ原で戦死したとされている佐土原城主島津豊久。（初名は忠豊、官位中務大輔。以下、「豊久」と略す）については、遺品なども僅かで、行動や家臣などに関しても不明な点が多く、豊久の最期の地なども明確に特定されていない。このような状況の中、関ヶ原合戦後の豊久に関する説話で酷似するものがいくつかあることがわかった。本稿ではこの説話について、紹介するとともに史実と照合しながら検討を試みた。

一 各説話の紹介

1、本城家文書「本城家由緒之覚」¹⁾の光明仏

（中略）光明佛と申氣違者、上方より罷下り、中務太輔豊久二而候与為申候、是を實之豊久二而候半など、女儀故為被申之由候、依其御咎目五百石之地被召上、御養被召置候、甥之鎌徳丸^{後内膳之助}養子二而候得共、光明佛と申者、鹿兒島へ被召寄、南林寺於洲崎御打果させ候也、

関ヶ原の戦いの後、詳しい年代は不明だが、上方より、自分は中務大輔豊久であると申す光明仏という「氣違者」が現れた。この者を実の豊久であると偽証したとして、豊久長姉は咎められ所領である五百石を没収された。東郷忠頼（豊久二弟忠直三男）は長姉の養子であったが、知行が召上げられたので、破談となった。件の光明仏と申す者は、鹿兒島の南林寺の洲崎で処刑された。

2、「旧伝集 人」²⁾の偽豊久

一 青野ヶ原合戦之後、嶋津中務忠豊二少も無相違人参り候而数月彼宅二罷居候由、忠豊の内室を始、家来等、誠之中務殿と存居候、然に湯をあび被申候時、中務殿乳二而候母^{老服力}後よりあかをなかし申候に、中務殿にハあざ有之候か、あざ無之、又討死ハ誠之由候^下に如何と不審起り候て段々氣を付申候に、誠之中務殿二而無之由相知、そろりと討果し、南林寺地藏之脇二堀いけ候と也、せんだんの木有之候ハ、右之者之塚印二而候、是ハ根来坊主二而為有之由候、中務殿足輕志人・小者老人関ヶ原二而討もらされ罷下り候に、中務殿二能似候者有之候に、其元嶋津中務大夫忠豊二少茂無違人二而候、手前ハ中務

家来之者二而候、薩州二罷下られ中務二被罷成候得、左候ハ、自分共能ニ取計ふへきと色々すかし、つれ下り候由、依之罷下り、討死ハ不致出家いたし忍び居たる由申候ニ、内室を始、家来等興さめ、実之中務殿と見違ひ右通二而候由、中務殿内室大キ成不出来之由二而、音なしの事二而為有之由候、右之足輕・小者茂そろりと討果為申由候、忠豊の内室ハ其後自害被致候、右之坊主討果候ハ、宇田津某二而候由申説有之候、又宇田津ハ中務殿もり役之者二而、あきの下二あざ無之二付、誠之中務殿ニ者無之与見為申者之由共申説有之候如何、今鹿兒嶋荒田辺二中宿二而罷居候外城衆中宇田津彦七先祖二而候、

青野ヶ原^③(関ヶ原)合戦の後、豊久と瓜二つの人物が豊久の家で内室と家臣達と数か月過ごしていたが、豊久の乳母が本物の豊久にあるはずの「あざ」が体がないことに気付き、偽物と見破った。偽の豊久は宇田津某によって密殺され、南林寺の地蔵の脇に埋められ、梅檀の木がその者の墓印だという。この者は根米坊主で、豊久の部下であった足輕と小者が関ヶ原から戻る際に似た人物を豊久に仕立てあげ連れてきたのだという。

その後、内室の大きな失敗を秘するため、偽証した豊久家来の足輕や小者等も処刑され、内室も自害した。この宇田津は豊久の守役であったので坊主に顎の下に「あざ」がなかったため、偽物であると見破ったとの説もある。彼は鹿兒嶋荒田に住む外城衆の宇田津彦七の先祖である。

3、玉里文庫『真雄雑集』の「あざ」のある豊久

一 嶋津^{「豊久」}中務関ヶ原におひて 惟新公^{「自津義弘」}の御名代として戦死被成候処に、三年程して道具持壱人つれて被下候へハ何れも驚入候、此時中務殿ちやといふもあり、奥方などハ、中務殿にて候に紛ものと申ハ不屈などて立腹にて候、中務殿ハ左かた崎^{「マダ」}にあさかあり候、是に氣を付て見よと申候得者、其後成程あざ御座候、然者中務殿無紛と申せとも合点せぬもあり候、然処にいか成事や到来したりけむ、似せ中務に相究、則道具持をからめ問付けられ者、中務に少も違ひ申さぬ故私より御國元の事教申罷下候、此人ハ出家にてほうくせらるゝを美濃路にて見あたり、あやまり申と申出候、其口似中務ハ近名の小野の邊に遊びに出罷在を打果候へと被仰付、早々はせ付被打果候て今南林寺の地蔵堂の脇に埋る由、黒葛原市助殿より承候、

(中略)

右、間違・言違あやまりのミ多からん、

元文二(一七三七)年九月日 山田四郎右衛門

豊久が島津義弘の身代わりとなつて戦死した三年程後、道具持ちを伴つて豊久が帰還し、皆驚く。この豊久を「紛もの」という者もいたが、奥方はこれに立腹し、本物の豊久である証拠に左肩先の「あざ」があることを理由にあげたが、納得いかない者もいた。道具持ちを問い詰めれば、(豊久と)少しもたがわなかったので国元の事を伝え連れてきた。この人は坊主でぼろぼろになっている所を美濃路にて見つけたが、間違いであったとして、その日に豊久は殺害され、今は南林寺の地蔵堂の脇

に埋まっている。この話は黒葛原市助殿よりきいた。

二 各説話の考察

1、本城家文書の光明佛について

光明仏を豊久本人だと判定している豊久長姉は、永禄九（一五五六）年に誕生。母は榊山善久の娘で、島津忠良（日新斎）の孫である。号は小城⁶。詳しい年代は不明だが、初めは根占重張に嫁いだのち離縁している。離縁後、天正一五（一五七八）年から一六年には、人質として京へ上り、おおよそ一四年在京し、関ヶ原の戦いで豊久が戦死したとの知らせを聞き伏見を忍び出て、九月末に佐土原へ帰郷している⁶。その際、人質生活の褒賞として、五百石拝領している。その後、義弘の上意で加治木へ移され、そこで元和七（一六二一）年四月二二日、五六歳で死去している⁷。

この光明仏については豊久の真偽を確かめる記載がなく、どのような理由で偽物と断定がされたのか詳細は不明である。また何故、豊久長姉の処遇においても、領地没収・養子相続の破談のような目にあう必要があったのであろうか。『牧園町郷土誌』では、豊久長姉が「当時、一向宗と呼ばれた真宗に帰依して」おり、光明仏を擁護したことが「布教の手助け」と見なされ、加治木への移住も光明仏の再現を警戒し、行動を監視するためとしている⁸。薩摩では一向宗の嫌疑があるものは改宗しても重刑に処され、武士でも重ければ切腹、軽くて百姓として追放されたという⁹。

また、「花林長春大姉誌石銘文書覚¹⁰」では、「大姉盛年再嫁茂有之時節、逢々在京故子共（子供）衆無之」とある。

ところが、「御家伝并諸家由緒¹¹」では、薩州島津家島津忠栄（一五七五～一六四二年。初忠俊、通称藤四郎。以下、「忠栄」と略す）が兄の島津忠辰の死後、豊久を頼って佐土原に来て、豊久長姉に取り合わせ、婚姻を結んだとする¹²。宮崎県西都市の都萬神社の文禄五（一五九六）年九月の棟札には「嶋津藤四郎久祐朝臣」と忠栄らしき人物の名前が地頭として見える¹³。薩州家が改易になったにも関わらず、佐土原での忠栄の待遇はよかったように思われる。しかし、豊久の死後、自身を跡目にと企てたことにより、忠栄は豊久の家臣等に反発され、殺害されそうになり、その結果佐土原から逃亡している¹⁴。

豊久長姉は、このような事件に関係していたため、証言の信憑性が薄い人物と思われていたのではないだろうか。

2、「旧伝集 人」の偽豊久について

「旧伝集 人」で豊久の真偽を判定しているのが、豊久の乳母と豊久の守役の宇田津某という人物である。

この豊久乳母については素性は不明であるが、豊久の体の「あざ」がないことで偽物と証言しているものの、具体的な「あざ」の部位を指定していない。しかし、豊久守役の宇田津某は顎の下と特定している。確かに「本藩人物誌」では、慶長三年の彦陽城攻撃の際、「左ノ耳下ニ手負候」と豊久が負傷したとの記述がある。また、宇田津某については、『殉国名敷¹⁵』などに豊久家臣として宇多津之助（戒名「超宗忠越居士」¹⁶）の記載があるが、関ヶ原で戦死したとされている。子孫の「宇田津彦七」については不明である。

また、自害したとされる豊久室は、元龜三（一五七二）年十一月一七

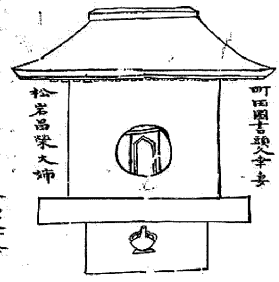


図1：島津圖書頭忠長女葬福昌寺島津氏城 町田圖書頭久幸妻 松岩昌榮大姉 (島津家文書「墓表圖記」)

死後、町田圖書頭久幸の後室となり、慶長一四（一六〇九）年三月二日、宮之城にて三八歳で逝去。法名は松岩昌英。墓は鹿児島にある島津家の菩提寺の福昌寺に葬られており、今のところ自害したと記している史料は確認されていない。

3、玉里文庫『真雄雑集』の「あざ」のある豊久について『真雄雑集』での、真偽の判定者は、前述した豊久室である。豊久の真偽判断の決め手は、左肩先の「あざ」であるという。豊久室は美濃路から来た者の肩に「成程あさ御座候」と「あざ」を確認している。なお、「佐土原藩譜」には「豊久左肩一創、左腰重創ヲ蒙リテ死ス」と戦死の記述がある。しかし、「あざ」があったにも関わらず、同行して来た道具持ちが「美濃路にて見あたり、あやまり申と」申し出た為、豊久と名乗る者は処刑されてしまった。

この「真雄雑集」は、明治一九年の写本であるが、識語には、「元文五（一七四〇）年五月廿四日、行年五拾七、四郎左衛門真雄」とあるの、この「四郎左衛門真雄」は、「山田氏一流第五」に記載がある山田真雄（初忠詮、中忠雄、三五郎、覚太夫。貞享元（一六八四）年五月二

日生、父は島津圖書頭忠長、母は島津忠将の娘である。伏見にて人質に取られており、関ヶ原の戦いでは、豊久の戦死を理由に義母・義姉と伏見から忍び出ている。豊久の

○日誕生。母御船手附小野木次郎兵衛義昌女）ではないかと思われる。さらに「諸家調抄」には山田四郎左衛門という人物が「御勘定方子小頭」とある。

また、この説話を真雄に話した黒葛原市助とは、「伊集院支流黒葛原系圖」にある俊春（初忠隣、悪袈裟、市助。延寶七（一六七九）年八月三日誕生。母同前（薬丸刑部左衛門兼陣（陳力）入道如水女））と人と思われる。なお、彼の祖父である薬丸示現流の祖薬丸兼陳の墓は南林寺由緒墓（南洲寺に隣接）にある。

三 共通点について

この三つの説話には、いくつか共通する点がある。

	本城家文書	旧伝集 人	真雄雑集
時期	不明	青野ヶ原合戦の後	関ヶ原の戦いから三年後
どこから	上方から	不明	美濃路
豊久と自称する者	光明仏	根来坊主	名無し
同行者	なし	中務家来	道具持壱人
真偽の判定者	豊久長姉	豊久乳母 宇田津某	豊久室
真偽の判定材料	不明	身体にあざ (顎の下のあざ)	左肩先にあざ
判断結果	本人	偽者	本人
処刑場所	鹿児島南林寺 洲崎	不明	近名の小野の辺
埋葬地	不明	南林寺の地蔵の脇にある栴檀の木	南林寺の地蔵堂の脇
影響	豊久長姉領地没収及び養子不逐	豊久室自害 足軽・小者処刑	不明

表1：説話比較表

表1にあるように、豊久の真偽を判定したものが宇田津某を除いて、豊久の近親者または近親に準ずる女性だという点である。各説話にも「中務忠豊二少も無相違人」、「中務殿能似候者」、「中務に少も違ひ申さぬ」と記述がある。近親者の三人の判定が必要な程、偽物と断定された者は実の豊久に瓜二つだったのであろう。

また、南林寺が埋葬地に共通している点も興味深い。

南林寺(図2)とは、武・坂本両村(鹿児島市)の境にあり、曹洞宗福昌寺の末にして島津貴久が創設したもので貴久の菩提寺。号は松原山江戸時代では、薩摩藩の曹洞宗のなかで福昌寺に次ぐ大寺であったというが、明治二(一八六九)年、廃仏毀釈により、廢寺となり翌年松原神社が創設された⁽²⁵⁾。

また、洲崎は眺望の良い場所として鹿児島八景に選ばれ『薩藩名勝志』⁽²⁶⁾に紹介されているが、現在は埋め立て地となってしまった。(図6)

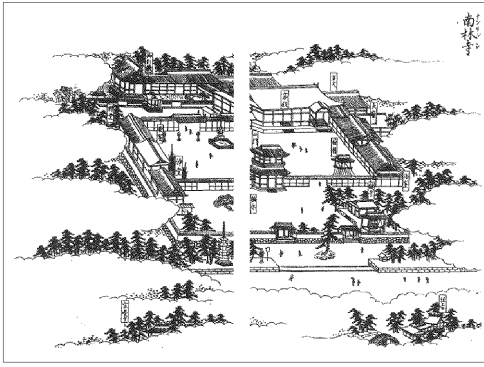


図2：「南林寺」



図3：鹿児島八景「洲崎落雁」



図5：旧薩藩御城下絵図(部分)
安政6(1859)年の地図にも南林寺と地蔵堂が確認できる。



図4：天保年間鹿児島城下絵図(部分)
鹿児島市立美術館蔵
左に南林寺があり、その右に地蔵堂が描かれている。



図6：明治17(1884)年鹿児島市街略図(部分)
松原神社(旧南林寺)近くの沿岸に洲崎塩濱があった。

さらに、地藏堂は「松原山の北口に在り。昔し隅州加治木帖佐の際海中より網に懸り引揚し故網掛地藏といふ。邦君眞明公尊信し給ひ鹿兒島鳥山に安置す²⁷⁾」。享保二(一七二二)年十一月今の地に遷す²⁸⁾とあり、図4の「天保年間 鹿兒島城下絵図」にも南林寺と地藏堂が確認できる。

この三つの説話が、元は一つの説話から派生して伝わったのか、三つとも独立した説話なのかは不明であるが、しかし、なぜ死亡した城主の名を語る大罪人を由緒ある寺の近くで処刑及び埋葬する必要があったのか。また、処刑の判決を下した者はどのような立場の人物だったのか判然としない。

おわりに

関ヶ原の乱後、押川強兵衛公近²⁹⁾(一五七一―一六二九)が鳥津義弘に命じられ、三虚空蔵参りを装って豊久の搜索と日本国内の様子を探すため、諸国を三年行脚している³⁰⁾。豊久と押川強兵衛は関ヶ原の戦いで、共に伊勢貞成を先陣に敵中に切り込んでいた。その戦火の中、山田弥九郎(有菜)と赤崎丹後の二名が、鞍つぽに「殊之外血流候故(大量に血痕があったため)」、豊久を「戦死無疑(戦死に疑い無し)」と断定したため、豊久の死が周知されたが、遺体の確認もなく、曖昧な状況での死の断定が、豊久の生死を不明瞭にさせていたのだろう。豊久の名を語る者が登場する今回のような説話もこのような状況が関係していると考えられる。

今回、豊久に関する説話の検討をすることで、豊久の死の状況の手掛

かりになればと考えた。検討については、まだまだ不十分であり、今後の課題にしたいと考える。豊久については、これからも継続して研究を進めていき、少しでも実像に近づいていきたい。

なお、各説話の翻刻にあたっては、本館資料調査編集員の春山直人氏に多大なる御教示・御協力をいただいた。記して厚く感謝申し上げます。

註

(1) 『伊佐市郷土史誌史料集一』(伊佐市郷土史誌編さん委員会、二〇一五年)「本城家文書」五―三号。なお、本文の体裁については筆者が改めた。

(2) 「旧伝集 人」(表題には「薩州旧伝記」とある)(国立公文書館内閣文庫デジタルアーカイブ)。旧所蔵・昌平坂学問所。この伝記の中には、豊久の子息が幼すぎたため家督を継げなかったとあり、その子孫として鳥津主殿の名をあげている。主殿とは永吉鳥津家の当主であろう。

なお、『舊傳集 その二』(鹿兒島県立図書館所蔵)にも、次のような説話が収録されている。

一 青野か原合戦の後、鳥津中務^(大輔)太夫忠豊^(無頼)二少も違人参り候而数月彼宅に罷居候よし、忠豊の内室を始め家来等、誠の中務殿と存居候、然に湯をあひ被申候時、中務殿乳二而候老母後々あかを流し被中候時、中務殿二者あざ有之候が、あざ無是、又討死は誠のよし候にいか、と不審起候て段々気を付申候に、実之中務殿二而無是よし相知、早々討果し、南林寺地藏の脇二堀いけ候と也、せんだんの木有之候者、右之者の塚印二而候、是は根来坊主二而為有之由候、中務殿足輕宅人に小者壱人関ヶ原二而討もらされ罷下候二、中務殿によく似候者

有之候に、其元ハ鳥津中務太輔忠豊に少も違なき人ニ而候、手前ニハ中務家来之者ニ而候、薩劔ニ罷られ中務ニ被罷成候得、左候ハ、自分共能ニ取はからひぬへきと色々すかし、つれ下り候よし、依是罷下り、討死者いたさず出家いたし忍び居たるよし申候に、内室を始め家来等興さめ、実の中務殿と見違ひ右通ニ而候由、中務殿内室（成説也）大き不出来之由ニ而、音なしの事ニ而為有之由候、右之足輕（不説也）に者もそろりと討果し為申由、忠豊之内室者其後自害いたされ候、右之坊主討果候者、宇田津某ニて候と申説も有之候、又宇田津は中務殿もり役之者にて、あき（説）の下にあざ無是ニ付、誠の中務殿ニ而無是と見付申たる者のよし候とも申説有之候如何、今鹿兒島あら田辺ニ中宿ニ而罷居候外城衆中宇田津彦七先祖ニ而候、

（奥書）

愚鈍軒無藝無能居士

安政三年辰五月日

宮里正芳

恐らく「旧伝集 人」と同系統の異本であり、安政三（一八五六）年の写本であることが伺えるが、「旧伝集 人」では、「誠之中務殿ニ而無之由相知、そろりと討果し」とある箇所が、「旧伝集 その二」においては、「実之中務殿ニ而無是よし相知、早々討果し」などの違いが見られる。また「愚鈍軒無藝無能居士」については、宮里正芳という人物の雅号のようなものだと推測するが、家系や経歴などの詳細は不明である。

（3）慶長五年九月一七日の「吉川廣家自筆書状案」（『大日本古文書吉川家文書 家わけ九ノ二』九一三号）に「青野か原」の記載がある。

（4）『真雄雑集』鹿兒島県立図書館所蔵本。原資料は鹿兒島大学附属図書館所蔵。

（5）個人蔵「鳥津中務太輔家久一流戒名書上」榊山家資料（黎明館保管）。『本城山緒覚』では小城に慶長六年に移ったとある。

（6）註（一）に同じ。

（7）『新編鳥津氏世録支流系図』『家久一流』『鹿兒島県史料 旧記雑録拾遺 諸氏系譜三』

（8）『牧園町郷土誌』八一〇頁（牧園町、一九八一年）

（9）瀬戸山計佐儀「廃仏毀釈と一向宗弾圧―諸県地方の実態と宮崎県庁の対策―」『宮崎県地方史研究紀要 第一三輯』（宮崎県立図書館、一九八七年）

（10）『伊佐市郷土史誌史料集一』『本城家文書』二六号

（11）「鳥津弥市郎家由緒」（鹿兒島県史料 旧記雑録拾遺 記録所史料二）「御家伝并諸家由緒」 五九号

（12）『鹿兒島県姓氏家系大辞典』（鹿兒島県姓氏家系大辞典編集委員会編、角川書店、一九九四年）

（13）『本藩人物誌』（鹿兒島県立図書館、一九七一年 鹿兒島県史料集一三）

因果関係は不明だが、薩州家忠辰の家老であった市来家成も、朝鮮から帰朝後、佐土原に「客遊」しており、その後、太守家久に仕えている（『鹿兒島県史料 旧記雑録拾遺 伊地知季安著作史料集（以下、『季安著作史料集三』所収）「諸家系図文書」二九号「惟宗姓市来氏系図」記事）。

（14）拙稿「鳥津豊久に関する棟札について」『黎明館だより』Vol. 34 No. 3

（15）註（11）同じ。豊久の姉と婚姻関係になったのも「豊久之跡願之趣茂有之」との思惑があったようだ。

（16）『始良市誌史料一』（始良市教育委員会（歴史民俗資料館、二〇一三年）

(17) 『中書公関ヶ原随兵連名』(島津忠亮写、一八八四年)

(18) 「本城家山緒之覚」「御家伝并諸家山緒」には、豊久母と豊久室が伏見から脱出した記載はない。

(19) 「町田氏正統系譜 廿五」「鹿兒島県史料 旧記雑録拾遺 家わけ三」によれば、紀州高野山恵光院の石塔には、「正年卅九」とある。また、福昌寺の豊久室の墓は現在まで確認されていない。

(20) 『佐土原藩譜(一)』(宮崎県立図書館、一九九七年)

(21) 「山田氏一流第五」「鹿兒島県史料 旧記雑録拾遺 諸氏系譜二」

(22) 「諸家調抄」「鹿兒島県史料 旧記雑録拾遺 伊地知季安著作史料集九」

(23) 「伊集院支流黒葛原系圖」「鹿兒島県史料 旧記雑録拾遺 諸氏系譜一」

(24) 『鹿兒島県の地名』(平凡社、一九九八年 日本歴史地名体系第四七巻)

(25) 註(24)に同じ。

(26) 「薩藩名勝志(その一)」「鹿兒島県立図書館、二〇〇三年 鹿兒島県史料集四二」

(27) 註(26)に同じ。

(28) 『天保年間 鹿兒島城下絵図』(鹿兒島市立美術館、二〇一八年)

(29) 註(13)と同じ。

(30) 桐野作人『さつま人国誌…戦国・近世編』(南日本新聞社、二〇一一年)

田中為雄『押川強兵衛尉公近武方の伝』(私家版)、一九六九年、郷土資料集 五)「慶長五年」十一月四日付、島津家久宛「島津維新義弘書状(折紙) 一一五五」(『大日本古文書 家わけ一六〇二』)では、豊久を「無余儀親類」として、佐土原の処遇を取り計らって欲しいと義弘は願っている。

また、粟林文夫「島津氏の虚空蔵信仰—安房国清澄寺を中心に—」(黎明館黎明館調査研究報告 第二五集、二〇一三年)には、三虚空蔵参りは、島津

家にとって疱瘡祈願の信仰であったとしている。

(31) 「諸旧記 五」「鹿兒島県史料 旧記雑録拾遺 伊地知季安著作史料集四」

図1 「墓表圖記」島津家文書(東京大学史料編纂所蔵)

図2 「南林寺」「薩藩名勝志(その二)」「鹿兒島県立図書館、二〇〇三年、鹿兒島県史料集四二」

図3 「洲崎落雁」「薩藩名勝志(その一)」「鹿兒島県立図書館、二〇〇三年、鹿兒島県史料集四二」

図4 「天保年間 鹿兒島城下絵図(部分)」「天保年間 鹿兒島城下絵図」(鹿兒島市立美術館蔵、二〇一八年)

図5 「旧薩藩御城下絵図」(部分)『旧薩藩御城下絵図』(鹿兒島県立図書館、二〇〇一年)

図6 「明治一七(一八八四)年鹿兒島市街略図(部分)」「鹿兒島市史 第三(鹿兒島市、一九七一年)

表1 「説話比較表」

表2 「島津豊久家臣一覧」

表3 「島津豊久年表一覧」

表2・表3は、本稿に直接の関わりはないが、本稿の最後に豊久の家臣及び年表の一覧表を附した。筆者の読解力不足もあって文献による差異や重複、さらに推定の点も少なくないなど甚だ不十分であるが、今後の研究

の一助になれば幸いである。

(みやした あい 本館学芸課資料調査編集員)

表2：島津豊久家臣一覧

氏名	別称 (表記のゆれ含む)	経緯	参考資料
林末吉内		添川島の御海河内海戦で戦死。戒名「大通忠連居士」	永吉郷土史 中書公阿ノ原隨兵連名
阿久根孫六兵衛	孫兵五、孫兵衛	杵川城での戦いで戦死。戒名「泰山忠慮居士」	永吉郷土史 小林市史 中書公阿ノ原隨兵連名
南田休三郎	久三郎	養子忠栄について悪言。佐上原を母で出孫大坂城に「佐土原山田南田久三郎」と小指に書き付けた者がいた。	本藩人物誌 永吉郷土史
南田乗助	(西田か)、業介、業助	杵川城に於いて名譽の戦死。戒名「大信忠忠居士」	本藩人物誌 養子忠栄及び病死者名簿 家久一流 永吉郷土史 阿田名敷 西藩烈士十城録 中書公阿ノ原隨兵連名
南田勘助		譜代の騎馬役	永吉郷土史
南田又三郎		杵川城へ大明勢押寄せ来る時として差上る。又三郎は敵を追って望津坂の上で敵3人打倒、刀折る。	本藩人物誌 西藩烈士十城録
有川勘解由使		譜代の騎馬役	永吉郷土史
有川左近		譜代の騎馬役	永吉郷土史
有川大四郎		高麗人を正面だと承知がある。	永吉郷土史
有馬右衛門		南原城の戦いで戦死。譜代の騎馬役	永吉郷土史
有馬源次郎		譜代の騎馬役	永吉郷土史
有馬新右衛門		慶長2年8月16日、鼻を添えて口木へ洋進した際の家臣	本藩人物誌
有馬豊人助		関ヶ原戦死。戒名「玄徳忠節居士」	本藩人物誌 永吉郷土史 於薩州阿ノ原御供養死各墓亡之俗名(室暦12年6月書収之) 阿田名敷 関ヶ原戦死佐上原衆位牌 西藩烈士十城録 中書公阿ノ原隨兵連名
有馬多右衛門		譜代の騎馬役	永吉郷土史
有馬典助		譜代の騎馬役	永吉郷土史
有馬龍右工門	有馬龍右、竜右衛門	慶長2年8月13日より15日に亘る南原城攻撃の際、夜更留さる時先登して名譽ある死。譜代の騎馬役。戒名「良誠忠節居士」	西藩烈士十城録 中書公阿ノ原隨兵連名
安藤忠吉		譜代の騎馬役	永吉郷土史
安藤典内左衛門		譜代の騎馬役	永吉郷土史
安藤米五郎		関ヶ原戦死	永吉郷土史
安藤東五郎	立成十	関ヶ原戦死。戒名「森徳忠節居士」	本藩人物誌 於薩州阿ノ原御供養死各墓亡之俗名(室暦12年6月書収之) 阿田名敷 関ヶ原戦死佐上原衆位牌 小林市史 西藩烈士十城録 中書公阿ノ原隨兵連名
飯田六右衛門		譜代の騎馬役	永吉郷土史
入江田清左衛門		譜代の騎馬役	永吉郷土史

氏名	別称 (表記のゆれ含む)	経緯	参考資料
入江田清左		譜代の騎馬役	永吉郷土史
志嶋芳左衛門		譜代の騎馬役	永吉郷土史
津田重秋	作兵衛	元禄3年午、豊久死後、伊集院に移住。後に島津伯久に仕える。寛永11年、63歳死去	永吉郷土史 永吉郷土史
津田大進次郎		譜代の騎馬役	永吉郷土史
池之上志摩之助		譜代の騎馬役	永吉郷土史
池之上英後		高麗人を正面だと承知がある。	永吉郷土史
伊地知伊右衛門		譜代の騎馬役	永吉郷土史
伊地知珍右衛門		譜代の騎馬役	永吉郷土史
石塚甚平		関ヶ原戦死。戒名「白筋忠一居士」	本藩人物誌 永吉郷土史 於薩州阿ノ原御供養死各墓亡之俗名(室暦12年6月書収之) 阿田名敷 関ヶ原戦死佐上原衆位牌 西藩烈士十城録 中書公阿ノ原隨兵連名
			家久一流 日記雑録後編3 1171 諸家系図4
上原佐六(貞) 右衛門	高良、休藏	丹後守兼子、実は長野下總守の長子 関ヶ原戦死、25歳。豊久と人重の中に罷入った13歳のうちの1男。法名加護安忠淨苑門。中書公阿ノ原隨兵連名には戒名「良田忠節居士」 別国名敷 関ヶ原戦死佐上原衆位牌 中書公阿ノ原隨兵連名	家久一流 日記雑録後編3 1171 諸家系図4 永吉郷土史 西藩烈士十城録
上原徳右衛門		譜代の騎馬役	永吉郷土史
上原伴助		譜代の騎馬役	永吉郷土史
上原七仙市		譜代の騎馬役	永吉郷土史
上原季千代		譜代の騎馬役	永吉郷土史
織原忠阿弥	織原、忠阿彌	関ヶ原戦死。戒名「入津忠節居士」	永吉郷土史 於薩州阿ノ原御供養死各墓亡之俗名(室暦12年6月書収之) 阿田名敷 関ヶ原戦死佐上原衆位牌 西藩烈士十城録 中書公阿ノ原隨兵連名
宇田清助		関ヶ原戦死	永吉郷土史
宇多津之助	宇田、宇多津之介	関ヶ原戦死。戒名「超宗忠節居士」	永吉郷土史 於薩州阿ノ原御供養死各墓亡之俗名(室暦12年6月書収之) 阿田名敷 関ヶ原戦死佐上原衆位牌 西藩烈士十城録 中書公阿ノ原隨兵連名
宇多津之介		関ヶ原戦死	永吉郷土史
宇都郷三		譜代の騎馬役	永吉郷土史
上井右衛門之丞		譜代の騎馬役	永吉郷土史
上井伸左衛門		譜代の騎馬役	永吉郷土史

氏名	別称 (表記のゆれ含む)	経緯	参考資料
江藤壽繁	次五右衛門	誕生年月不知。朝鮮出陣。豊久死後、澁州谷山に住む。死去年月不知(参照丁字)	垂水市史料集14
大藏兵衛	人倉兵衛	中間。心願なる者故、常に日に掛けられていた船の帆を切り取る。	本藩人物誌 西藩烈士干城録
大迫万兵衛		講代の騎馬役	永吉郷土史
大島口五郎		晋州城での飛いで戦死	永吉郷土史
大島大九郎	九郎作五	晋州城を攻めらるるに促ひ戦て死。戒名「孝忠 忠風居士」	晋州城名 中書公関ヶ原陣兵連名
大場左近		講代の騎馬役	永吉郷土史
小川彦吉		講代の騎馬役	永吉郷土史
奥伊平		講代の騎馬役	永吉郷土史
奥源五左衛門秀次		馬津信久に仕える。旧記床土原衆と有る。	垂水市史料集14
押川八郎右衛門		講代の騎馬役	永吉郷土史
鬼丸小八		南原城の戦いで戦死	永吉郷土史
足九與八郎		講代の騎馬役	永吉郷土史
甲斐齋部		講代の騎馬役	永吉郷土史
甲斐權助		講代の騎馬役	永吉郷土史
甲斐正介		漆川梁御戦に参戦	西藩烈士干城録
鹿原左渡		講代の騎馬役	永吉郷土史
勝山式部		南原城の戦いで戦死	永吉郷土史
権山吉次郎		講代の騎馬役	永吉郷土史
権山善兵衛		講代の騎馬役	永吉郷土史
権山藏人	藏人	組糸をとし。奥家老として伏見に。	本藩人物誌 永吉郷土史
権山久介		漆川島の鎮海高内海戦。慶長2年7月15日に於いて名譽ある死	家人一流 永吉郷土史 殉四名義 西藩烈士干城録 中書公関ヶ原陣兵連名
権山文助	権山、分助	豊久近習。19歳で豊長2(1597)年、7月15日、漆川島の鎮海高内海戦で明辨を破に徒い、奮戦して戦死。戒名「大源忠丁所七」	永吉郷土史 於澁州関ヶ原御供養死各靈亡之俗名(至曆12年6月書改之) 殉四名義 関ヶ原戦死佐上原衆位牌 西藩烈士干城録 中書公関ヶ原陣兵連名
権山與兵衛	与兵衛	関ヶ原戦死。戒名「石兵忠祝居士」	本藩人物誌 永吉郷土史
川上右近将監		豊久家老。広原地頭(邑宰)。戦功。高六百石、後豊久に徒い肥後島へ。紅白をとし交之鎧着用仕候	本藩人物誌 永吉郷土史 関ヶ原戦死佐上原衆位牌 於澁州関ヶ原御供養死各靈亡之俗名(至曆12年6月書改之) 殉四名義 西藩烈士干城録 中書公関ヶ原陣兵連名
川越藤助	河越	関ヶ原戦死。戒名「泰口忠貞居士」	本藩人物誌 永吉郷土史 於澁州関ヶ原御供養死各靈亡之俗名(至曆12年6月書改之) 殉四名義 西藩烈士干城録 中書公関ヶ原陣兵連名
川崎良次	内藤	始今譯名字。馬津信久の奥方に徒い、慶長5年10月に在上原から垂水に移住。寛永16年死去(寛永存知)	垂水市史料集14

氏名	別称 (表記のゆれ含む)	経緯	参考資料
川野大氣		晋州城での戦いで戦死	永吉郷土史
川野大兵衛		文禄2年癸卯6月、晋州城の戦いで戦死。戒名「大氣忠源居士」	殉四名義 中書公関ヶ原陣兵連名
木清平助		春川城での戦いで戦死	永吉郷土史
北原八右衛門		講代の騎馬役	永吉郷土史
木下助六	木之下	天正20年壬辰5月、春川城での戦いで手負。戒名「余忠忠源居士」	薩守戦死者及殉死者名簿 家人一流 永吉郷土史 本藩人物誌 殉四名義 中書公関ヶ原陣兵連名
津藤孫四郎		講代の騎馬役	永吉郷土史
久木崎伊賀		講代の騎馬役	永吉郷土史
久留助右衛門		講代の騎馬役	永吉郷土史
齋孫次郎		関ヶ原戦死	永吉郷土史
黒木勘左衛門		田内戦死にて、其勲と年月なし。	殉四名義
桑波田越後		講代の騎馬役。高麗人を正面だと重宝がる。	永吉郷土史
桑波田七郎兵衛		講代の騎馬役	永吉郷土史
利曾隆七兵衛		講代の騎馬役	永吉郷土史
瀧三郎	玄三郎	足懸。関ヶ原戦死。戒名「勝因忠義居士」	永吉郷土史 於澁州関ヶ原御供養死各靈亡之俗名(至曆12年6月書改之) 殉四名義 関ヶ原戦死佐上原衆位牌 西藩烈士干城録 中書公関ヶ原陣兵連名
玄善	玄幡	島津豊久下人。足懸。関ヶ原戦死。戒名「雪庭忠義居士」	本藩人物誌 永吉郷土史 於澁州関ヶ原御供養死各靈亡之俗名(至曆12年6月書改之) 殉四名義 関ヶ原戦死佐上原衆位牌 西藩烈士干城録 中書公関ヶ原陣兵連名
小八		島津豊久下人。足懸。関ヶ原戦死。戒名「忠輝早七」	本藩人物誌 殉四名義 西藩烈士干城録 中書公関ヶ原陣兵連名
小瀬依兵衛		講代の騎馬役	永吉郷土史
是枝善右衛門	別枝實(加) 右衛門	関ヶ原戦死。講代の騎馬役。戒名「貞口忠庭居士」	本藩人物誌 永吉郷土史 於澁州関ヶ原御供養死各靈亡之俗名(至曆12年6月書改之) 殉四名義 関ヶ原戦死佐上原衆位牌 西藩烈士干城録 中書公関ヶ原陣兵連名
是枝元伊助		講代の騎馬役	永吉郷土史
坂五郎助		文禄2年5月晋州城攻撃の際、名譽ある戦死	永吉郷土史 薩守戦死者及殉死者名簿

氏名	別称 (実記のゆれ含む)	経緯	参考資料
坂元伴助	坂本伴助	晋州城での戦いで戦死。戒名「雷音忠誓居士」	家久一流 永吉郷土史 殉国名載 西藩烈士十城録 中書公阿ヶ原隨兵連名
坂元半兵衛	坂本、伴兵衛	内川の乱で戦死。高麗人を止むたと重宝がある。譜代の騎馬役。死亡場所、年月不明。戒名「高藤忠呼居士」	家久一流 永吉郷土史 殉国名載 西藩烈士十城録 中書公阿ヶ原隨兵連名
相良覺石衛門		譜代の騎馬役	永吉郷土史
相良三太郎		譜代の騎馬役	永吉郷土史
相良頼直	尊兵衛頼直 初「北阿曾前兵衛」	尊兵衛頼直、初「北阿曾前兵衛」。佐兵衛頼時養子、実は旗本大藏4男。吾久公命で中書家久へ奉仕、佐土原居住。三浦惣頭、新田地頭(邑字)、弓張安、加甲役。善久と高島、在陣中に「相良」へ。善久打死後後見見島へ450石。子孫「相良尊兵衛。白口神社の棟札に「惣頭藤原頼直」として祀祀あり。	本藩人物誌 西藩烈士十城録 永吉郷土史 山口神社棟札
佐土原勘十郎		関ヶ原戦死。戒名「意徳忠純居士」	永吉郷土史 於濃州関ヶ原御供養死各靈亡之俗名(宝暦12年6月普改之) 殉国名載 関ヶ原戦死佐土原衆位牌 西藩烈士十城録 中書公阿ヶ原隨兵連名
佐土原勘十進		譜代の騎馬役	永吉郷土史
三郎次郎	三郎二郎	鳥津豊久下人。足輕。関ヶ原戦死。戒名「声屋忠幸信士」	本藩人物誌 於濃州関ヶ原御供養死各靈亡之俗名(宝暦12年6月普改之) 殉国名載 関ヶ原戦死佐土原衆位牌 西藩烈士十城録 中書公阿ヶ原隨兵連名
鯉島十右衛門		譜代の騎馬役	永吉郷土史
三右衛門		鳥津豊下人。足輕。関ヶ原戦死。戒名「覚明忠忠信上」	於濃州関ヶ原御供養死各靈亡之俗名(宝暦12年6月普改之) 殉国名載 関ヶ原戦死佐土原衆位牌 西藩烈士十城録 中書公阿ヶ原隨兵連名
七郎三	七郎二	鳥津豊下人。足輕。関ヶ原戦死。戒名「全久忠林信上」	本藩人物誌
清水吉左衛門		譜代の騎馬役	永吉郷土史
白濱伊豆		譜代の騎馬役	永吉郷土史
門裏九太郎		譜代の騎馬役	永吉郷土史
坂井三郎兵衛		浪之市衆。関ヶ原で豊久に付く	本藩人物誌
四郎次	四郎二	足輕。関ヶ原戦死。戒名「狐塚忠信居士」	永吉郷土史 中書公阿ヶ原隨兵連名
甚二郎		鳥津豊久下人。関ヶ原戦死	本藩人物誌

氏名	別称 (実記のゆれ含む)	経緯	参考資料
岡志保助		春日城での戦いで戦死	永吉郷土史
岡志保之助	陣	善久死後、小林郷坂村に移住。戒名「島山忠誓居士」	小林市史 中書公阿ヶ原隨兵連名
菅源四郎		小林郷坂村に移住。戒名「魚山忠誓居士」	小林市史 中書公阿ヶ原隨兵連名
菅弥次郎	菅彌次郎	関ヶ原の戦いで戦死	於濃州関ヶ原御供養死各靈亡之俗名(宝暦12年6月普改之) 殉国名載 関ヶ原戦死佐土原衆位牌
藤正盛	藤兵衛時 藤正衛	朝鮮出陣。其の後、夫婦で佐土原を出て、鳥津信久に付える。	垂水市史料集14
善八		鳥津豊久下人。足輕。関ヶ原戦死。戒名「真心子忠信士」	本藩人物誌 殉国名載 関ヶ原戦死佐土原衆位牌 西藩烈士十城録 中書公阿ヶ原隨兵連名
曾木石京		譜代の騎馬役	永吉郷土史
曾木彦兵衛		関ヶ原戦死。戒名「別峯忠誓居士」	本藩人物誌 永吉郷土史 於濃州関ヶ原御供養死各靈亡之俗名(宝暦12年6月普改之) 殉国名載 関ヶ原戦死佐土原衆位牌 西藩烈士十城録 中書公阿ヶ原隨兵連名
園田主膳		譜代の騎馬役	永吉郷土史
高徳正	戒名「別外忠信居士」	鳥津豊久下人。足輕。関ヶ原戦死。戒名「真心子忠信士」	中書公阿ヶ原隨兵連名
高嶋越前		善久時代旅家老。	永吉郷土史
高嶋兵部		高麗人を正直だと重宝がある。	永吉郷土史
高嶋六郎五郎		譜代の騎馬役	永吉郷土史
出島五右衛門	出嶋	関ヶ原戦死。戒名「綱良忠誓居士」	於濃州関ヶ原御供養死各靈亡之俗名(宝暦12年6月普改之) 殉国名載 関ヶ原戦死佐土原衆位牌 西藩烈士十城録 中書公阿ヶ原隨兵連名
伊達吉次兵衛		譜代の騎馬役	永吉郷土史
山中重明	九左衛門 伊三郎	天正7年年。朝鮮、庄内、関ヶ原の戦い出陣。元和年間、鳥津信久に仕える。鳥原合戦出陣。明暦3年11月死去	垂水市史料集14
山中惣内		譜代の騎馬役	永吉郷土史
山中七郎		朝鮮出陣。	永吉郷土史
山中文左衛門		譜代の騎馬役	永吉郷土史
山口采女		譜代の騎馬役	永吉郷土史
谷松彌六兵衛		南原城の戦いで戦死	永吉郷土史
出原十右衛門	秀明	関ヶ原戦死。高麗人を正直だと重宝がある。子孫高岡の十。戒名「感山忠誓居士」	永吉郷土史 於濃州関ヶ原御供養死各靈亡之俗名(宝暦12年6月普改之) 殉国名載 西藩烈士十城録 中書公阿ヶ原隨兵連名

氏名	別称 (表記のゆれ含む)	経緯	参考資料
田原長右衛門		関ヶ原の戦いで戦死。	関ヶ原戦死佐土原衆位牌 本藩人物誌 水吉郷土史 於瀧州関ヶ原御供養死各霊亡之俗名 (至厩12年6月晋改之) 居上」
宇吉次兵衛		関ヶ原戦死。譜代の騎馬役。戒名「信忠忠道 居上」	関ヶ原戦死佐土原衆位牌 西澤烈士干城録 中書公関ヶ原隨兵連名
徳田豊彦	大助	江州藩牛下之郡が年回、織田信長に仕える。文徳元年、朝鮮出陣。慶長5年息子を連れて陣亡。富城へ、島津豊久に見え、後に久信に仕える。巨田神社・都葛神社・天清天神社の棟札に名前がある。寛永13年12月11日死去	幸永市史料集14
富田勝太		関ヶ原の戦いで戦死	於瀧州関ヶ原御供養死各霊亡之俗名
富山次十郎	外山、富山、口向守	慶長4年12月8日、庄内安水、風呂呂各の上で襲撃で死ぬ。16歳。新納忠元が死傷おら、「非日マテ誰カ手枕ニ臥シテテ運カモトニカカル異変」譜代の騎馬役	本藩人物誌 水吉郷土史 列伝名数 西澤烈士干城録 家人一流
富山庄太	富山、外山、若夫、若太、勝太、庄太	関ヶ原戦死、豊久と大軍の中に駆入った13騎のうちの1騎。戒名「一豊忠居上」	山記雑録後編3 水吉郷土史 列伝名数 関ヶ原戦死佐土原衆位牌 西澤烈士干城録 中書公関ヶ原隨兵連名
烏丸新藏		高麗人を正直だと重宝がる。	水吉郷土史
烏丸右近		譜代の騎馬役	水吉郷土史
烏丸重彦		柳右衛門重彦入道重慶。豊後守重口2男安重重通の子。朝鮮の役は島津豊久に従い軍功。子孫永吉に景作	本藩人物誌 列伝名数 中書公関ヶ原隨兵連名
高丸右衛門		譜代の騎馬役	水吉郷土史
水井惣四郎		晋州城での戦いで戦死。譜代の騎馬役。戒名「勤普忠現居上」	水吉郷土史 列伝名数 中書公関ヶ原隨兵連名
中尾重友	駒之助 右近 七左エ門	朝鮮出陣。豊久死後、島津信久に兵兵奉行として仕える。寛永元年9月死、年71(飯沼良言)	垂永市史料集14 西澤烈士干城録 中書公関ヶ原隨兵連名
長倉以左衛門	長倉以左	慶長2年8月16日、鼻を添えて日本へ注進した際の家臣	本藩人物誌 西澤烈士干城録 永吉郷土史 列伝名数 中書公関ヶ原隨兵連名
長倉傳右工門	傳右衛門	慶長2年8月13日より15日に亘る清原城攻撃の際、名譽ある死。戒名「至電忠雲居上」	西澤烈士干城録 関ヶ原戦死佐土原衆位牌 中書公関ヶ原隨兵連名
長田勘三郎		関ヶ原戦死。戒名「孝忠忠石居上」	西澤烈士干城録 関ヶ原戦死佐土原衆位牌 中書公関ヶ原隨兵連名
永田宮内左衛門		譜代の騎馬役	水吉郷土史

氏名	別称 (表記のゆれ含む)	経緯	参考資料
長野下総		豊久家老。三村地頭 (邑宰)。広原地頭 (邑宰) へ継り替え。戦功数多。格高一丁餘	本藩人物誌 水吉郷土史 永吉郷土史
長野十郎兵衛		譜代の騎馬役	永吉郷土史
長野御前		高麗人を正直だと重宝がる。	水吉郷土史
中村源助		関ヶ原戦死、豊久と大軍の中に駆入った13騎のうちの1騎のうち	家人一流 旧記雑録後編3 水吉郷土史 於瀧州関ヶ原御供養死各霊亡之俗名 (至厩12年6月晋改之) 列伝名数 関ヶ原戦死佐土原衆位牌 西澤烈士干城録
中村源藏		戒名「備外忠法居上」	中書公関ヶ原隨兵連名
永山勘内		高麗人を正直だと重宝がる。譜代の騎馬役	水吉郷土史
永山入次左衛門		譜代の騎馬役	水吉郷土史
永山宮内		譜代の騎馬役	水吉郷土史
鍋谷伊豆		高麗人を正直だと重宝がる。	水吉郷土史
西條源藏		漆川島の熊谷灣内海戦で戦死。戒名「一簡忠 録居上」	水吉郷土史 中書公関ヶ原隨兵連名 慶軍戦死者及殉死者名簿 家人一流
野々村梅右衛門	野村	春山城に於いて名譽の戦死。戒名「百崎奉忠 録居上」	列伝名数 水吉郷土史 西澤烈士干城録 中書公関ヶ原隨兵連名
野村寛内	野田	慶長4年庄内戦死	家人一流 水吉郷土史 列伝名数 西澤烈士干城録
野村源藏		庄内の乱で戦死。死地場所、年月不明。戒名「豊榮忠居上」	家人一流 西澤烈士干城録 中書公関ヶ原隨兵連名
深田貞傳	九右エ門	父貞相は中書家久の番頭。朝鮮出陣。豊久死後、父貞相と重次に來て江戸で忠臥に仕える	垂永市史料集14
深田新三郎	浜田	豊久の姉と、伏見から佐十原へ帰還	本藩人物誌 西澤烈士干城録
原出藏人		譜代の騎馬役。関ヶ原で戦死。墓は極天寺。戒名「録頼忠顯居上」	水吉郷土史 中書公関ヶ原隨兵連名
原山七郎右衛門		譜代の騎馬役	水吉郷土史
原後盛恒	伊馬 権左エ門	豊久死後、島津豊久に仕える。承應2年死去	垂永市史料集14
久留山水		譜代の騎馬役	水吉郷土史
原勘助五郎		春山城に於いて名譽の戦死。戒名「大節忠的 居上」	慶軍戦死者及殉死者名簿 家人一流 水吉郷土史 列伝名数 西澤烈士干城録 中書公関ヶ原隨兵連名

氏名	別称 (表記のゆれ含む)	経緯	参考資料
平井興右衛門	兵右衛門	春川城に於いて名譽の戦死。戒名「大川忠流 永久一流 永吉郷十史 列国名教 西藩烈士千城録 中書公卿ノ原随兵連名	本藩人物誌 薩軍戦死者及殉死者名簿 家久一流 永吉郷十史 西藩烈士千城録 中書公卿ノ原随兵連名
平岡平内		譜代の騎馬役	永吉郷十史
平田伊賀入道		家久・豊久の重臣。近習役、秘傳頭。豊久時代子大將、家老職、高直山五石	伊佐市郷土史 永吉郷十史
平口孫左衛門		譜代の騎馬役	永吉郷十史
福永興八		普州城での戦いで戦死。戒名「全功忠□居上」	永吉郷十史
福山勘藏		関ヶ原戦死	西藩烈士千城録 中書公卿ノ原随兵連名
福山敬其		戒名「青山忠陽居士」	中書公卿ノ原随兵連名
福山甚左衛門		関ヶ原戦死。	永吉郷十史
福山忠藏		関ヶ原戦死	本藩人物誌 於薩州関ヶ原御供養死者各靈亡之俗名（至徳12年6月書取之） 列国名教 関ヶ原戦死佐十原衆位陣
藤井石兵之丞	石之助	普州城での戦いで戦死。戒名「岡山忠申居士」	永吉郷十史 列国名教 中書公卿ノ原随兵連名
藤崎三之丞		譜代の騎馬役	永吉郷十史
藤田惣助		譜代の騎馬役	永吉郷十史
二見孫千代		譜代の騎馬役	永吉郷十史
二見仁助		譜代の騎馬役	永吉郷十史
二見八助	助八	慶長2年8月16日、鼻を添えて日本へ進出した薩の家臣（本藩人物誌）。慶長2年8月13日より15日に亘る南原城攻撃の際、名譽ある死（薩軍戦死者及殉死者名簿）。戒名「松嶽忠操居士」	薩軍戦死者及殉死者名簿 本藩人物誌 永吉郷十史 列国名教 西藩烈士千城録 中書公卿ノ原随兵連名
瀧藤五郎七		南原城の戦いで戦死。	永吉郷十史
古川和泉		譜代の騎馬役	永吉郷十史
古川勘右衛門		譜代の騎馬役	永吉郷十史
古川吉右衛門		譜代の騎馬役	永吉郷十史
古川源左衛門		譜代の騎馬役	永吉郷十史
古川利助		漆川島の鎮守寺内海戦で戦死。高麗人を玉置だと宣言する。譜代の騎馬役。戒名「古川忠調居士」	永吉郷十史 中書公卿ノ原随兵連名
外山龍中		譜代の騎馬役	永吉郷十史
外山次十郎		戒名「徳山忠明居士」	本藩人物誌
本田七郎兵衛	久盛	本田城之介の子。家久・豊久家老。都於郡地頭（城守）。三浦地頭（邑守）	西藩烈士千城録 永吉郷十史 伊佐市郷土史 郷土史料集1
本田次郎右衛門		譜代の騎馬役	永吉郷十史
本田次郎兵衛		譜代の騎馬役	永吉郷十史

氏名	別称 (表記のゆれ含む)	経緯	参考資料
本田城之介	城之助 又次郎 久親 加賀右衛門、主簿	中書家人の母橋部の兄。家久・豊久家老。都於郡地頭（軍城守）。戦功数多。家禄一千二百石。春川城の戦いで豊久から褒賞される程、敵を数多く打ち取った家来がいたが、名が知らず。	本藩人物誌 西藩烈士千城録 永吉郷十史 伊佐市郷土史 郷土史料集1
本田興占		譜代の騎馬役	永吉郷十史
前田大城兵衛		慶長4年庄内で戦死。譜代の騎馬役。死に場所、年月不明。戒名「夢山忠常居士」	家久一流 永吉郷十史 列国名教 西藩烈士千城録 中書公卿ノ原随兵連名
前田伊右衛門		豊久の姉上代員から佐上原へ帰還	本藩人物誌 西藩烈士千城録
松浦補助	新助、益助	春川城に於いて名譽の戦死。戒名「松岩忠柏居士」	家久一流 本藩人物誌 列国名教 西藩烈士千城録 中書公卿ノ原随兵連名
益藤長助	巻筒、長介	関ヶ原戦死。戒名「太陽忠白居士」	於薩州関ヶ原御供養死者各靈亡之俗名（至徳12年6月書取之） 列国名教 関ヶ原戦死佐十原衆位陣 中書公卿ノ原随兵連名
三浦助五郎		関ヶ原戦死。	永吉郷十史
水島對馬		譜代の騎馬役	永吉郷十史
清門丹波		譜代の騎馬役	永吉郷十史
清門伴助		譜代の騎馬役。豊久姉上伏見から佐上原へ帰還	本藩人物誌 永吉郷十史
三原九兵衛	重□	11月13日、庄内の乱の時、山田城で戦死。師千任内戦死し出城。戒名「景峯忠徳居士」。佐土原守守戦亡帳、「慶長二年十月廿九日十二月十四日小幡大北入か」	諸家系図4 家久一流 列国名教 西藩烈士千城録 中書公卿ノ原随兵連名
三原小藤太		鶴羽を忠告公に進上	本藩人物誌 西藩烈士千城録
三原朝内		譜代の騎馬役	永吉郷十史
三原藤七	重□	関ヶ原で戦死。豊長5年庚子、従豊久庄上関塚、追豊久戦死藤七亦死之、法名傑心英俊上座、亦貞不昌寺戦亡帳	諸家系図4
三原宮内		譜代の騎馬役	永吉郷十史
宮中藤之介		譜代の騎馬役	永吉郷十史
宮之原才兵衛		譜代の騎馬役	永吉郷十史

氏名	別称 (表記のゆれ含む)	経緯	参考資料
宮原助五郎	宮之原助五郎	関ヶ原戦死。譜代の騎馬役。戒名「禪山忠骨 関ヶ原十史」	本藩人物誌 於濃州関ヶ原御供養死各重亡之俗名(至曆12年6月更改之) 永吉郷十史 列回名載 関ヶ原戦死佐上原衆位牌 小林市史 西藩烈士十城録 中書公関ヶ原随兵連名
米良新十郎		関ヶ原戦死	本藩人物誌
米良新七郎		関ヶ原戦死。譜代の騎馬役。戒名「有法忠幹 関ヶ原十史」	永吉郷十史 於濃州関ヶ原御供養死各重亡之俗名(至曆12年6月更改之) 列回名載 関ヶ原戦死佐上原衆位牌 西藩烈士十城録 中書公関ヶ原随兵連名
空崎惣右衛門		譜代の騎馬役	永吉郷十史
森新藏		関ヶ原戦死。戒名「孝風忠鶴居士」	永吉郷十史 中書公関ヶ原随兵連名
矢上埴右衛門		譜代の騎馬役	永吉郷十史
矢上源市		関ヶ原戦死。譜代の騎馬役	永吉郷十史
矢上弥山		戒名「心安忠齋居士」	中書公関ヶ原随兵連名
八木伸蔵	伸蔵	春川城に於いて名答の戦死。戒名「樹山忠栄 居士」	薩軍戦死者及病死者名簿 家久一流 永吉郷十史 列回名載 中書公関ヶ原随兵連名
八木信親	喜助 佐渡之丞	元和4年生まれ。白山藩現内陣陣札に佐渡之丞清道と有る。朝鮮出陣。寛永元年、御蔵役。死去作月不明(遠慮否)	重水市史料集14
矢野近江		高麗人を正面だと重要がる。	永吉郷十史
矢野弥市		高麗人を正面だと重要がる。	本藩人物誌 列回名載 関ヶ原戦死佐上原衆位牌 西藩烈士十城録
山口彌五郎		藤川島の鎮海内海戦、慶長2年7月15日に於いて名答ある死。戒名「貞了忠實居士」	薩軍戦死者及病死者名簿 家久一流 本藩人物誌 永吉郷十史 列回名載 西藩烈士十城録 中書公関ヶ原随兵連名
山下豊兵衛		高麗人を正面だと重要がる。	永吉郷十史
山下清盛	彌兵衛	天正4年丙子年。初め池田氏と名乗り、その後山ノ下氏の養子となる。豊久死後、慶長9年甲辰池田氏祖重利兄弟で佐土原を去り、伊集院に移住後、島津侵入に行える。寛永2年乙亥10月16日死去	重水市史料集14

氏名	別称 (表記のゆれ含む)	経緯	参考資料
山ノ下防		文禄2年5月(「殉死名載」では6月) 晋州城攻撃の際、名答ある戦死。戒名「剛門忠美店 士」	薩軍戦死者及病死者名簿 家久一流 永吉郷十史 列回名載 西藩烈士十城録 中書公関ヶ原随兵連名
山口次郎右衛門		譜代の騎馬役	永吉郷十史
山田彌兵衛		譜代の騎馬役。籍はこんをとし	永吉郷十史
山之内又右衛門		譜代の騎馬役	永吉郷十史
山元藏右衛門		譜代の騎馬役	永吉郷十史
弓削大膳右衛門		譜代の騎馬役	永吉郷十史 於濃州関ヶ原御供養死各重亡之俗名 関ヶ原戦死佐上原衆位牌
弓削新左衛門		関ヶ原戦死。譜代の騎馬役。戒名「松安忠藤 居士」	本藩人物誌 永吉郷十史 列回名載 西藩烈士十城録 中書公関ヶ原随兵連名
榊山石右衛門		譜代の騎馬役	永吉郷十史
吉野三郎		譜代の騎馬役	永吉郷十史
吉野助三郎		譜代の騎馬役	永吉郷十史
若狭甚兵衛		豊久死後、隠州重水の文四郎信久公に仕える。	永吉郷十史
若松弥六兵衛		戒名「長山忠輝居士」	重水市史料集14
渡邊明	茂右エ門 玄蕃	永禄3年生。豊久死後、島津信久に仕える。明暦6年丙申11月20日死去	重水市史料集14
和田右右衛門		譜代の騎馬役	永吉郷十史
和田藤右衛門		戒名「天外忠南居士」	永吉郷十史
不明		戒名「天澄忠圓居士」	中書公関ヶ原随兵連名
不明		永主。戒名「圓盛忠方居士」	中書公関ヶ原随兵連名
不明		永主。戒名「通明忠長居士」	中書公関ヶ原随兵連名
不明		永主。戒名「万孝忠百居士」	中書公関ヶ原随兵連名
不明		不明。戒名「翠岩忠孝居士」	中書公関ヶ原随兵連名
不明		不明。戒名「本真忠口居士」	中書公関ヶ原随兵連名
不明		足軽。戒名「祖屋忠寛居士」	中書公関ヶ原随兵連名
不明		足軽。戒名「太徳忠寛居士」	中書公関ヶ原随兵連名

参考文献

- 「中書公関ヶ原随兵連名」(島津忠邦等、1884年)
- 山口 九十郎「薩軍戦死者及病死者名簿：文禄慶長河役朝鮮在陣中之」(私家版)、1916年)
- 永吉郷十史(天昌尋常高等小学校編、1938年)
- 「本藩人物誌」(鹿児島県立図書館、1971年)
- 鹿児島県史料(鹿児島県立図書館後編3)
- 「於濃州関ヶ原御供養死各重亡之俗名(至曆12年6月更改之)」『まいつる』(佐土原地区郷土史同好会、1984年)
- 「関ヶ原戦死佐上原衆位牌」『まいつる』(佐土原地区郷土史同好会、1987年)
- 「内村市史 第1巻」(国書刊行会、1987年)
- 家久一流「鹿児島県史料 山記薩縣街道 諸氏系譜3」
- 「重水市史料集14」(重水市教育委員会、2000年)
- 「西藩烈士十城録(1)」(鹿児島県立図書館、2010年)
- 「列回名載」『鹿児島市歴史資料』(鹿児島市教育委員会(歴史民俗資料館)、2013年)

西暦	和暦	年	月	日	事項	出典	
	(文禄)	(3)	7	12	秀吉・秀頼に継子の種子一枚、高麗姫子六羽、秀吉の奥方と母へ贈り二枚ずつ贈る。	旧記雑録後編2	1346
	(文禄)	(3)	7	17	秀吉より伊豫の朱印供到来	家わけ19	61
	(文禄)	(3)	8	14	福島正則から提案に同意し刑形をもちつたと、義弘を通じて豊久と伊東に伝える。	大日本古文書 家わけ16 島津家文書之4 島津家文書之4	1826
	(文禄)	(3)	8	18	小西行長を訪問	大日本古文書 家わけ16 島津家文書之4	1774
	(文禄)	(3)	9	23	秀吉から、普請が丈夫といわれる。なお、尽力しと伝えられる。	旧記雑録後編2	1382
	(文禄)	3	10	4	佐上原の加増を申し付けられる。	家わけ19	53
	(文禄)	(3)	11	2	柴田康に、略奪や人身売買を禁じる通達。	旧記雑録後編2	1228
	(文禄)	(3)	11	4	豊臣秀次に在陣を妨げられる。	旧記雑録後編2	1229
	(文禄)	3	11	8	豊久、島津忠恒に大刀と馬代と古銅をささげる。	西藩烈士千歳録	1423
	(文禄)	(3)	11	17	秀吉に弾薬を贈る。	旧記雑録後編2	1423
	(文禄)	(3)	12	20	豊久、小早川秀秋と宇喜多秀家の渡津にあたり、尽力するように申付けられる。※春には兵船も渡せるとのこと。	旧記雑録後編2	1639
	(文禄)	(3)	12	22	秀吉に歳暮として呉服一通贈る。	家わけ19	45
	(文禄)	(3)	12	26	歳暮に秀吉と北政所呉服一通贈る。	旧記雑録後編2	1434
1595	(文禄)	(4)	正	15	秀吉に白鳥一重贈る。	旧記雑録後編2	1443
	(文禄)	(4)	正	15	高麗姫御入敷帳に二番・伊東・秋月・高橋・豊久合わせて貳千人と記載される	大日本古文書 家わけ16/2 島津家文書	957
	(文禄)	(4)	8	23	秀吉に熊の皮30枚贈る。	旧記雑録後編2	1182
1596	(文禄)	(5)	5	15	加藤清正が御鞘する風聞について相良頼房に再状を出す。	大日本古文書 家わけ15/2 相良家文書	764
	文禄	5	9	□	都萬神社（宮崎県西都山）に人権那として棟札を上棟	都萬神社	
	文禄	5	11	16	巨口神社（宮崎県佐土原町）に大團那として棟札を上棟	巨口神社	
	(慶長)	(元)	2	9	秀吉から母を召意次第、護衛しようとする通達。	旧記雑録後編3	25
	(慶長)	(元)	11	4	秀吉に在番を妨げられる。	旧記雑録後編3	130
1597	慶長	2	2	15	高麗の奥出勢法度で手勢800人で三番手(三ぞなへ)に。豊久手勢800人で三番手。	旧記雑録後編3	190
	慶長	2	2	21	加藤清正の参戦、赤田入御春日並びに行列取下さる。豊久手勢800人で三番手。	旧記雑録後編3	192
	(慶長)	(2)	4	17	相良頼房に、秀吉から朱印を贈ったことを報せる。	大日本古文書 家わけ15/2 相良家文書	810
	(慶長)	(2)	7	10	秀吉から雑丁一、通眼一を贈う。	旧記雑録後編3	253
	慶長	2	7	14	豊久、船奉行と船頭を派遣し、普請の動きを探り、兵具・熊手・鉄砲を竹丸・小竹丸に積ませる。また、赤川の水の雑給を切らさないように命じる。	本藩人物誌	
	慶長	2	7	15	豊久、漆川梁渡載に参戦。豊久新七に出じ抜かれそうになるが、機転を利かせ、敵の三番手に大きない船を乗っ取り日本に帰る。三番手に手駒を上げる。	本藩人物誌	
	慶長	2	7	16	日本へ軍功を注進す。	本藩人物誌	
	慶長	2	7	28	南原義家略の為、酒川を築つ。求礼で真口の人数を定める。	本藩人物誌	

西暦	和暦	年	月	日	事項	出典	
	(慶長)	(2)	8	9	豊久、三番目に大きい敵の船を送ったことで制勝状を頂戴す。	旧記雑録後編3	281
	慶長	2	8	13	南原城を攻撃。南原本陣から忠臣が戦勝の祝いに登れ、豊久の祝いぶりを激賞。	本藩人物誌	
	慶長	2	8	15	豊久、南原城の戦いで、敵首13をとる。	本藩人物誌	
	(慶長)	(2)	8	16	豊久、陣替えになったことを相良頼房に報せる。	大日本古文書 家わけ15/2 相良家文書	812
	慶長	2	8	16	敵首の鼻を添えて日本に報告する。忠臣が来て豊久の勝軍を祝う。	本藩人物誌	
	慶長	2	8	19	忠臣、豊久の願へ御見廻す。	本藩人物誌	
	慶長	2	8	25	豊久、忠臣の御見廻りの御礼に参上し、御挨拶。	本藩人物誌	
	慶長	2	8	26	忠臣が来て、豊久らと参合。	本藩人物誌	
	(慶長)	(2)	9	13	秀吉から、南原城攻めでの御感状下さる。	旧記雑録後編3	303
	慶長	2	9	20	豊久、長城という古城で忠臣と行き違い、引き離れ、酒川に隔陣。酒川新城を苦闘。	本藩人物誌	
	慶長	2	10	13	豊久含む日本軍精鋭11名の運名で禁止事項などが決められる。	朝鮮征討精鋭 冠軍案	1463
	慶長	2	10	28	豊久、赤國より無事に帰陣	奥高麗使入 日記抄 町田氏正編系譜	23
	慶長	2	10	29	豊久、無事巨陣のお祝いに、三原小藤本を擁し廻り参上。	本藩人物誌	
	慶長	2	12	・	豊久、朝鮮國において家老の本田久俊を誅す。	伊佐市郷土史誌 史料集一	
	慶長	2	12	13	忠臣、豊久へ見廻りに来る。	西藩烈士千歳録	
	慶長	2	12	14	豊久、忠臣への御礼に三原小藤本を遣す。	西藩烈士千歳録	
	慶長	2	12	16	朱印状にて、再渡海命令が出される。	旧記雑録後編3	343
	慶長	2	12	18	本田親昌、叛恨領事が義弘父子の命で鉄砲弾50人に加勢に来る。	西藩烈士千歳録	
	(慶長)	(2)	12	27	歳暮に秀吉と北政所へ呉服一通贈る。	旧記雑録後編3	345
	—	—	12	22	豊久、肥地両氏の為に相良頼房を請い、承諾されたことを報す。	大日本古文書 家わけ15/2 相良家文書	813
	慶長	3	正	1	彦陽城を攻撃。	本藩人物誌	
1598	慶長	3	正	1	蔚山城に援軍として到着。敵百2級を討取り、百を敵の前輪へ送びつける。左耳下に手負い。この日、敵の百800余入。先徳の護美として、加藤清正、淺野幸長両将から感謝状を贈う。	家人一流 町田氏正編系譜	24
	(慶長)	(3)	正	17	秀吉から小袖一、通眼一を贈う。	旧記雑録後編3	360
	(慶長)	(3)	8	25	秀吉から通眼給を贈られる。	旧記雑録後編3	456
	慶長	3	8	25	豊久、秀吉の御朱印にて、伊東・秋月・高橋・相良とともに掃部命が出る。	大日本古文書 家わけ16/2 島津家文書	983
	慶長	3	11	15	豊久、釜山浦へ引揚る。日暮に釜山浦に火の手がある。釜山向いの稚木島で船20隻で待つ。運れた義弘、忠臣を小舟で出迎える。不思議に御口に餅を嵌めて授す。	本藩人物誌	
	慶長	3	11	22	釜山浦へ引揚しようとしたが、大雪・風で滞留。釜山浦上の間に敵1000人が押し寄せ、釜山浦に閉居。対馬に参船。博多へ参る。伏見へ滞留。文禄元年から七年間の朝鮮征伐。	本藩人物誌	
	慶長	3	11	23		本藩人物誌	

西暦	和暦	年	月	日	事項	出典	
	慶長	3	11	25	豊臣氏奉行衆からも堀朝を命じられる。	旧記雑録後編3	583
	慶長	3	12	10	筑前到着。秀吉の死を知った豊久は涙で櫓を濡らした。	家久一流	595
1599	慶長	4	2	—	朝鮮での働きにより、公家坂して「中務大輔」を与えられ、「侍従」に任じられる。	西番烈士十城録	
	慶長	4	3		堀国の櫓を賜る。	家久一流	
	慶長	4	3	9	庄内の乱、伊集院忠貞の反乱で家康が「堀国」に義久と相談せよ」として伏見発つ。	本藩人物誌	
	慶長	4	3	29	豊久、佐土原に帰着。	家久一流 本藩人物誌	
	慶長	4	4	2	豊久、大御宿邸へ行き、義弘に御目見、出陣等を請願する。	本藩人物誌	
	慶長	4	5	11	新公家衆御法度御請之連判に際機付役で連名	旧記雑録後編3 語家系図文書3	741 91の2
	慶長	4	6	—	豊久、佐土原より庄内(庄内)へ出陣。	本藩人物誌	
	慶長	4	6		山田城攻めに加わる。豊久、新堀を囲み明刻より牛堀まで攻める	家久一流 本藩人物誌	
	慶長	4	6	22-23	敵が寄り取った豊久の旗を建てる。諸手より皆見で「豊久・番乗り」と先を攻め立てる。	旧記雑録後編3 附田氏正統系譜	775 24
	慶長	4	6	27	忠臣が豊久に感状と人刀一腰下さる	旧記雑録後編3	770
	慶長	4	6	29	島津忠貞に山田城攻等の報告する。	旧記雑録後編3	778
	(慶長)	(4)	8	20	寺澤正成を遣わし、家康から書面にて、伊集院忠貞を討つように勧められる。	旧記雑録後編3	776
	慶長	4	10	5	豊久は森田へ出陣。	本藩人物誌	
	慶長	4	12	24	惣川家康から書状にて加勢することを乞なりとされる。	旧記雑録後編3	990
	慶長	4	12	24	上田の家康書状に對する守澤の簡状	旧記雑録後編3	991
	慶長	4	12	27	家康から小箱・重の札状が送られる。	旧記雑録後編3 家わけ9	85
1600	慶長	5	正	25	豊久、伊勢貞昌に庄内の乱の戦後処理を依頼する。	旧記雑録後編3	1023
	慶長	5	2	5	豊久、伊勢貞昌に高城の落城が明近であることを伝える。	旧記雑録後編3	1032
	慶長	5	2	20	山口直友が、島津義弘と豊久に一向日戦闘中止を要請する。	大口本古文書 家わけ16 島津家文書-24	1973
	慶長	5	2	29	堀山・勝岡・山之口下城し、豊久、北郷三久受取る。	本藩人物誌	
	慶長	5	3	朔	豊久、島津忠貞の陣へ見舞。高城勢が砲聲きで妻孥連れ郡城へ退くのを見る。敵の討伐を合戦に不利の懸目崩日に下知し、高城を落城させる。	本藩人物誌	
	慶長	5	3	13	伊集院忠貞降参。豊久、島津忠貞から野々三谷を賜るが、辞退する。	旧記雑録後編3	1066
	慶長	5	5	12	佐土原を船出。参勤で伏見へ。	旧記雑録後編3	1128
	慶長	5	6	5	天馬天孫社(宮崎県佐土原町)に大進船として櫓札を上棟	旧記雑録後編3	1128
	慶長	5	6	28	長束正家等連名書状に豊田秀頼に忠誠を誓うよう以上の旨あり。	大崎天神社 旧記雑録後編3 家久一流	1127 385
	慶長	5	7	17	西軍、伏見城を攻撃。堀国の途についていた豊久も急遽加わる。	本藩人物誌	

西暦	和暦	年	月	日	事項	出典	
	慶長	5	8	1	伏見城攻め。城番島村元忠・内藤家長戦死、落城す。	本藩人物誌 家久一流	
	慶長	5	8	15	三成の命で豊貞(江波の波)を守るため、伏見から佐和山を経て美濃へ向い、大垣城外の築田に陣す。(義弘が加勢に本出陣攻と足軽を贈る)	本藩人物誌	
	慶長	5	8	20	島津義弘から、本田正親を通じて、助勢の要請あり	島津義弘書状 【慶長5(1600)年 8月20日付 本田正親宛】	
	慶長	5	9	13	義弘の陣へ到着。山田有栄参着。三成参勤。銘々御目見とす。	本藩人物誌	
	慶長	5	9	14	豊久・義弘、石田等と陣外の明家で軍議。豊久、夜討ちを提言するが島津連に却下される。大垣城を出て、夜間ヶ原へ都陣す。	本藩人物誌	
	慶長	5	9	15	大軍の陣に13騎で戦入り戦死。首は小田原浪入笠原左衛門がとったと記録されている。	本藩人物誌	
	慶長	5	9	18	島津忠貞(豊久弟)の伏見の家臣が豊久母・豊久姉に届出す、すくなく(集船、堀田へ)。	本藩人物誌	
	慶長	5	9	20	稲妻のうわさ、黒田如水下知と称して一揆す。佐土原郡於郡の浦城を攻め取られる。	本藩人物誌	
	慶長	5	9	29	豊久母・豊久姉が細島乗船。佐土原へ帰着す。	本藩人物誌	
	慶長	5	9	末	豊久母・豊久姉・豊久室、佐土原に下着	伊佐市郷土史誌 史料集1	
	慶長	5	10	1	義弘は佐土原へ到着。忠直は銭買に水袋及び袴で迎える。義弘は豊久母・豊久妻に会い、豊久の戦化の模様を語り戻す。	本藩人物誌	
	慶長	5	11	14	榑川忠助が佐土原家臣「命を水城に落し名譽残せ、居着するな」と下知。	大日本古文書 家わけ16の2 島津家文書	1155
1601	慶長	6	9	17	義弘、忠直に「佐土原之事、中務少輔殿無命戦報類と申」と佐土原の処遇について取り計らうように記す。	本藩人物誌	
1601	慶長	6	9	17	徳川家康から封を受けた島津久が佐土原を統治。	本藩人物誌	
1609	慶長	14	3	2	豊久夫人は実家にある宮之城に帰った後、伊集院郷石合村豊土町日久幸の後妻になり、37歳で死去。	町田氏正統系譜	25
	—	—	—	—	島津久精の時代豊久が普用していた鑓は小田原の室原家に保存されていたが、永ら島津家七代久剛が参勤交代の折、相良某に命じて買い取らせた。槍底にカ所あつて糸突切る事などありという	本藩人物誌	
1759	寛政	12	11	—	三内内助入道という80歳の老人が、御遺族を奉養、御願と位牌を大切に仕る。御願所に占據の木を種之島津塚とする。位牌の法名「鶴光院殿法蓮源津大居士」。元文3(1738)年、高輪山1編瑞光寺再建される。	御霊所創立帳 由緒書	
1763	宝暦	13	9	15	水戸島津6代久芳の葬、水戸天早寺に靈神建立。法名「天守昌蓮大居士」。	豊久公葬名並序 島津豊久 御霊御守繪書付	
1777	安永	6	9	6	島津久芳が天呂寺に先祖の豊久の遺品と伝わる鏡を奉納		
	—	—	9	15	伊集院元菜から山田土佐入道医師への書状に伊集院相良が明徳在陣の時「馬津中務大輔是非共世を」見参之由被申候へ共、謹致届控候」と豊久が山田土佐入道医師に送った書状が記してある。	日向古文書集成 山田文書	225
	—	—	卯	11	豊久、相良長母に書状出す	大日本古文書 家わけ17/2 相良家文書	811

参考文献

- 大日本古文書家わけ2 浅野文書
大日本古文書家わけ5/2 相良家文書
大日本文書家わけ9 吉川家文書之2
大日本文書家わけ16 島津家文書之4
大日本古文書家わけ16/2 島津家文書
【豊臣秀吉高麗出陣立書案】(島津家文書)
【鹿児島県史料 旧記雑録後編2】
【鹿児島県史料 旧記雑録後編3】
【間田氏江家系譜】(鹿児島県史料 旧記雑録拾遺 家わけ31)
【家久一統】(鹿児島県史料 旧記雑録拾遺 諸氏系譜3)
【鹿児島県史料 旧記雑録拾遺 家わけ19】
【大日本古記録 上井流兼日記 上・中・下】(岩波書店、1954・1957年)
【豊久公陰縁ゆかり】(村上郷土史 十巻) (日野郡吹上町教育委員会、1969年)
【本藩人物誌】(鹿児島県立図書館、1971年 鹿児島県史料集13)
【新藩何定 通史編】(新藩町、1992年)
【黎明館合戦四百年記念誌 奇蹟の至室】(島津家文書「徳慶700年の歴史が伝える」(鹿児島県歴史資料センター黎明館、2000年)
上野 克己「鹿児島十八人存抄録 年表」(高城書房、2005年)
【西藩烈士千歳録(1)】(鹿児島県立図書館、2010年)
【天保城六守閣記要(第40号)】(天保城天守閣、2013年)
【伊佐市郷土史歴史資料集II】(伊佐市教育委員会、2015年)
宮下 愛「島津豊久に関する権利について」『黎明館だより』Vol.34 No.3 (鹿児島県歴史資料センター黎明館、2016年)
新名 仁「島津家久・豊久文字と日向国」(宮崎県文化講座研究紀要) 第44輯、2018年)

追記（一部記載に誤りがありましたので修正します。）

誤	正
P61 天正14/4/17 本藩人物誌	P61 天正14/4/17 西藩烈士干城録
P61 文禄元/10/一 豊久、諸将同様に開陣し王都に引入る。 本藩人物誌	P61 文禄元/10/一 豊久、諸将同様に開陣し王都に引入る。豊久は麻田（京畿道）を守る。明兵が春川を攻めて来た時、義弘が援軍にくると敵は不戦、退却。援軍が還ると敵が攻めて来て、豊久軍奮戦、敵敗退。首級70の武勲を立てる。首は名護屋に献進。 本藩人物誌 旧記雑録後編2-974
P61 （文禄2）/9/16 秀吉に鶴・白鳥・鷹・鴨などの鳥を贈る。	P61 （文禄2）/9/16 秀吉から日向国中の鶴・白鳥・鷹・鴨外諸鳥を鉄砲で撃つなどして献上せよと命じられる。
P62 慶長2/8/13 南原城を攻撃。島津本陣から忠恒が戦勝の祝いに訪れ、豊久の戦いぶりを激賞。	P62 慶長2/8/13 南原城を攻撃。
P63 慶長3/12/10	P63 慶長3/12/一
P63 慶長5/3/13 野々三谷	P63 慶長5/3/13 野々美谷